

**生活安全部会**

部 会 長／福山 勝  
副 部 会 長／藤原新吾

**大災害に備えを**

阪神淡路大震災以降、日本は大地震の活動期に入っています。皆さんご存知の、近いうちに起こるであろうと予測される「東海・東南海

・南海地震」の他に、最近は「首都直下型地震」もニュースでよく取り上げられるようになりました。

また話には聞いていましたが、「養父断層」の記事が4月の神戸新聞の内陸4地震の中に載っていました。千年に一度と言われる大地震が起こったように、異常気象による災害も含めて、今まで予期していなかった事がいつ起こるかわかりません。

事前に準備していなかった事は、いざという時に出来ません。自分は、我が家は大丈夫と思わずに、今から出来る事を始めましょう。

今年は従来の活動の他に、防災の集いとして、擬似避難所体験研修、防犯・防災標語募集等、東日本大震災の教訓をもとに地震に対する備え、また最近の異常気象による風水害に対する備えに軸足を置いて活動します。

▶ 神戸新聞 内陸4地震の記事



**但馬・大蔵 じろはったんウォーク**

5月20日(日)第4回じろはったんウォークを開催しました。

今年は朝来市の後援のもと都市部の方々にも呼びかけていただき、加古川などから74名、地元からは92名、スタッフを含めると約200名の参加となり盛大に行われました。

10時に出発、法泉寺で、じろはったんの会による「キツネとしゃんぺいじいさん」の紙芝居を鑑賞。法道寺公民館では、大岡越前の署名刻印が記されている古文書を拝見。次に宮内・丸山古墳の頂上に登り、周囲に存在する古墳群の説明を受け、市民会館まで帰りました。高瀬区が販売していた、おにぎり、じろはったん汁は、とても美味しかったです。食後は、大蔵小学校の児童による合唱「パレードじろはったん」と「但馬の春」を聞き、続いてさんさん会「和」の皆さんによる「よさこいじろはったん」を披露していただき、元気をもらいました。午後からは、池田古墳に向かいました。案内役から、古墳にまつわる不思議な話に皆が聞き入っていました。今はすっかり形が見えない古墳ですが、新しくなった道路の下では、細心の注意を施した保存がされているそうです。最後に大蔵小学校の「百年桜」移植事業の話をお聞きしました。大蔵の住民にとって宝である桜が元気になるよう願います。

11kmに及ぶウォークにグッタリした帰り道でしたが、市民会館に着いた途端に、達成感に満ちあふれた笑顔に変わりました。参加頂きました皆様お疲れ様でした。

**健康福祉部会**

部 会 長／河島邦洋  
副 部 会 長／森田浩市



▲丸山古墳で、「王家の谷」の説明を聞きました

**交流と魅力づくり部会**

部 会 長／横尾正信  
副 部 会 長／山中秋信

**「大蔵自治協指定文化財」の指定に向けて**

大倉部登山や写真展、じろはったんベンチは人気メニューとして定着し、大蔵学講座・講演会の積み重ねは池田古墳シンポジウムを成功させるなど、

私たちの部会活動も、大蔵自治協の歩みの中に確かな一角を占めてきました。新年度は、これらの活動を継続するとともに、新規事業として「大蔵の文化遺産調査」に取り組みます。

路傍の道しるべや地蔵さま、美しく掃き清められた寺社の境内、昔の面影を伝える町並みや民家、使われなくなった生活用具や農具、大蔵の田んぼをくまなく覆う水路など、大蔵の先人たちが残してくれた遺産を漏れなく調査し記録にとどめ、そして「大蔵自治協指定文化財」を指定し、その魅力を次世代に伝えていきたいと思えます。多くの方々、とりわけ、豊かな知識と経験をお持ちの年配の方々のご協力とご指導をお願いします。

なお、部会では副部会長3人体制で今後の活動に臨みます。期するところは、①部会員の半数程度に固定化している活動メンバーの拡大 ②公民館事業の継続として実施してきた「大蔵まなび隊」の自治協事業への発展、充実 ③大蔵の文化遺産調査の着実な推進の三点です。部会員以外の方の清新なご意見や部会活動への随時参加を歓迎します。



▲5月5日の第4回大倉部登山は総勢69名が参加。

**大蔵小学校1年生、大蔵こども園児と サツマイモ植えをしました**

5月14日、マルチシートで覆い準備の出来た畑に、先生に引率された1年生27名が水の入ったペットボトルを手に、意欲満々の意気込みで学習田に到着しました。

ほとんどの生徒が昨年こども園で経験しておりますが、改めて部会員よりサツマイモのクイズや植え方の説明を受けました。そして1人1本ずつの苗を手で一列に並び、部会員や先生の手を借りながら所定の場所に上手に植え込みました。

又、引き続き大蔵こども園の4歳と5歳の園児が手をつないでペアとなり、総勢54名が先生に引率され緊張の顔で学習田に到着しました。小学生と同様に植え方の説明を受け1ペア1本の苗を植え付けました。4歳児は、初めての経験で5歳児の手伝いと先生や部会員に指導してもらいながら、上手に植えました。最後に持参のペットボトルの水と、子供用ジョロで溝から汲んだ水をたっぷりやり植え込みは完了しました。

サツマイモの成長と児童、園児の成長、そして秋の収穫が楽しみです。

**環境部会**

部 会 長／雑賀忠文  
副 部 会 長／藤原秀雄



植え方の説明を受ける園児たち。



▲サツマイモの植付け